〔島根女子短期大学紀要　Vol. 32, 69～80 (1994)〕

島根の雑煮の分布と変遷 (3)

江　角　由希子・小松原　紀　子・長　澤　嘉　子
（調理学第一・二研究室）

The Distribution and Changes of *Zoni* in Shimane (3)

Yukiko ESUMI , Noriko KOMATSUBARA , Yoshiko NAGASAWA

Keywords : *Zoni*　change　married　live　information
キーワード：雑煮　変遷　結婚　居住　情報

1．はじめに

食は伝統的，保守的なものであり，一度身についた食習慣は容易に変化しにくいものである。食生活が変化する要因はいくつかあるが，女性にとって最大の転機は結婚であろう。

前報[1]，前々報[2]では，島根にみられる雑煮の種類と分布および実施状況の年次的経緯を明らかにしたが，少なくとも元日は地域の雑煮が伝達継承されていることが確認できた。そこで，本報では，在学中に雑煮のレポートを提出した本県出身者のその後を追跡することによって，食生活の変化の要因や伝承の経緯を明らかにすることとした。

2．調査方法

前報，前々報の調査対象のうちA，Bについては1987年と1993年の2回，Cについては1993年の1回，はがきによるアンケート調査（**第1表**）を行い，卒業後の雑煮の実施状況を追跡調査した。

その結果を，既婚者について，在学中の雑煮を継続（以下継続）しているもの，変えたもの（以下転換）に区分し，妻と夫の出身を中心に家族形態別，居住別に実施状況をまとめて，変遷の経緯を考察し

第1表　アンケート用紙

1．雑煮を　イ．3か日作る　ロ．元日と2日作る
　　ハ．元日のみ作る　ニ．決めていない
　　ホ．作らない場合はその理由
　　（　　）
2．もちは　イ．丸もち　ロ．切りもち
3．もちは　イ．煮汁の中で煮る　ロ．別にゆでる
　　ハ．電子レンジ　ニ．焼く
4．

	煮出し材料	もち以外の具	味付け
例	いりこ	の　り	しょうゆ
元日			
2日			
3日			

5．貴女の学生時代の雑煮は（　　雑煮）でした。
　a．現在は変わっている　その理由は
　　イ．婚家先の雑煮を作る
　　ロ．現在住んでいる土地の雑煮を作る
　　ハ．主人の実家へ帰省する　ニ．家族の嗜好
　　ホ．その他（　　）
　b．現在も変わらない　その理由は
　　イ．自分の実家の雑煮を作る
　　ロ．夫と同じ雑煮であった
　　ハ．その他（　　）
6．イ．未婚　ロ．既婚　ハ．老人の同居　有・無
7．ご主人の出身地（　　県市　　郡　　町）

第２表　調査対象の概要－追跡Ⅰ－

（人）

年次			s.39－46	s.47－54	s.55－62	全体
グループ			A	B	C	
'93年時年齢			42－49歳	34－41歳	26－33歳	
在学時			174	163	185	522
回答数			120	105	95	320
既婚			119	101	66	286
未婚			1	4	29	34
対象	実状施況	継続	53	48	44	145
		転換	66	53	22	141
	家族形態	核	82	54	42	178
		複合	37	47	24	108
	妻と夫の出身	同圏	63	63	40	166
		異圏	25	15	10	50
		県外	31	23	16	70
	現居住の地	同圏	48	56	41	145
		他圏	14	12	7	33
		他県	57	33	18	108

第３表　調査対象の概要－追跡Ⅱ－

（人）

年次			s.39－46	s.47－54	全体
グループ			A	B	
'87年時年齢			36－43歳	28－35歳	
回答数			76	57	133
既婚			75	46	121
未婚			1	11	12
対象	実状施況	継続	31	20	51
		転換	44	26	70
	妻と夫の出身	自圏	22	15	37
		同圏	18	17	35
		異圏	19	4	23
		県外	16	10	26

第４表　親世代の変遷

第4－1表　親世代の変遷

（人）

転換／圏	A 在学	A 転換	B 在学	B 転換	C 在学	C 転換	D 在学	D 転換	合計 在学	合計 転換
小豆	81	10	62	8	87	7	67	6	297	31
海苔	25	2	23	6	28		15	2	91	10
小豆海苔	32	4	39	8	39	7	27	4	137	23
五色	6		10		8	2	1		25	2
黒豆	23	3	26	7	19	2	20		88	12
椎茸	7		3		4		2		16	0
合計	174	19	163	29	185	18	132	12	654	78

第4－2表　変遷の理由

（人）

年代・理由		A	B	C	D	合計
結婚前		2	9	3	6	20
理由	祖母の雑煮	2	4		4	10
	祖父の雑煮			1		1
	食材の変化		5	2	2	9
結婚時		5	15	7	1	28
理由	母の雑煮	4	14	7	1	26
	父の雑煮	1	1			2
結婚後		12	5	8	5	30
理由	母の雑煮	2	2	2	1	7
	し好の変化	8	1	5	3	17
	居住による変化	2		1		3
	その他		2		1	3
転換の合計		19	29	18	12	78

第4－3表　子世代の変遷

（人）

転換／圏	Ⅰ－A 対象	Ⅰ－A 継続	Ⅰ－A 転換	Ⅰ－B 対象	Ⅰ－B 継続	Ⅰ－B 転換	Ⅰ－C 対象	Ⅰ－C 継続	Ⅰ－C 転換	合計 対象	合計 継続	合計 転換	合計 合計
小豆	50	1	3	33	2	1	32	4	1	115	7	5	12
海苔	17		1	15	2	2	11			43	2	3	5
小豆海苔	25	1	2	27	3	2	14	1	2	66	5	6	11
五色	6			5			3			14	0	0	0
黒豆	16	1		19	4	1	4		1	39	5	2	7
椎茸	5			2			2			9	0	0	0
合計	119	3	6	101	11	6	66	5	4	286	19	16	35

た。また，親世代との比較も試みた。（追跡Ⅰ）

妻と夫の出身は，県内は雑煮圏別に分け，妻と夫の雑煮圏が同じ組合わせを同圏（以下同圏）とし，その中で，同一市町村出身者の組合わせをとくに自圏（以下自圏）とした。また，雑煮圏の異なる組合わせは異圏（以下異圏）とし，県外出身の夫との組合わせは県外（以下県外）とした。

つぎに，A，Bのうち1987年と1993年の両方に回答したグループについても，同様に追跡Ⅱとしてまとめ，実施状況の経時的変化を追求した。

回収率は1987年50.4%，1993年61.3%であった。

さらに，前報のA，B，C，Dグループの親世代の雑煮（前々報の調査項目2．わが家の雑煮の歴史）の変遷についても考察した。

3．結果および考察

1）親世代の雑煮

過去に雑煮の種別を変えたことが判明していたものは，A～D654人中78人（11.9%）であったが，なかでは，A10.9%，B17.8%とBに種別を変えたものが多かった。戦後の食糧不足の時期から経済の高度成長期[3]（S.36～48）へと，食環境が大きく変化したことが雑煮の上にも反映したと思われる。すなわち，具のない素朴な雑煮を貧弱で恥ずかしいと思う風潮や栄養改善意欲に加えて，生活全般について改革を試みる意識が強くあったためであろう。

また，C（9.7%），D（9.1%）と年代が下がるにつれて転換率がかなり減少していた。これは，経済の安定成長期[3]（S.49～63）を迎え，豊かな生活環境の中で，食を文化としてとらえる風潮[4]が高まり，先祖伝来の素朴な雑煮が見直されるなど，伝統食への回帰のはじまったことが原因と思われる。（**第4表**）

転換の時期を両親の結婚前，両親の結婚時，両親の結婚後の三期に分けてその理由をみると，結婚前の転換25.6%，結婚時の転換35.9%，結婚後の転換38.5%であった。とくに，結婚時の転換では，そのほとんどが母方の味（92.9%）への転換であり，結婚後の転換では，し好（56.7%）についで母方の味（23.3%）への転換が多かった。

また，出雲・簸川など小豆・海苔圏に，味噌からすまし雑煮への転換がみられ，古くは味噌仕立て（全国の味噌実施率18.9%，山陰7.8%）[5]の多かったことが推測された。

さらに，追跡Ⅰ（子世代A，B，C）のグループに，前記転換者の約半数（35／78人，44.9%）が含まれていたが，そのうちの45.7%が結婚後自らも雑煮の種別を変えていた。（**第4－3表**）

2）追　跡　Ⅰ

(1) 調査対象の概要

調査対象の概要は**第2表**のとおりで，既婚，未婚の比率は平均でそれぞれ89.4%，10.6%であった。そこで，このうちの既婚者を追跡の調査対象とし，雑煮の実施状況を追跡Ⅰ－A，Ⅰ－B，Ⅰ－Cとして集計した。

結婚後の雑煮の実施状況は，平均では，継続（50.7%）と転換（49.3%）がほとんど同率であったが，年次別では，Ⅰ－A，Ⅰ－B（44.5%，47.5%）よりⅠ－Cに在学時の雑煮を継続（66.7%）しているものが多かった。

家族の形態は，核家族62.2%，複合家族37.8%と核家族の比率がかなり高いが，Ⅰ－Bでは逆に複合家族（46.5%）の比率が高く同居世代であった。これは，女性の職業意識が高まり共働きが増えたことで，家族の協力や援助を必要としたからであろう。

また，妻と夫の出身を雑煮圏別にみると，妻と夫が同圏の組合わせは58.0%で，年次的には，Ⅰ－AよりⅠ－BおよびⅠ－Cに，同じ雑煮圏の組合わせが多かった。また，夫が県外出身の比率は24.5%であった。

居住地は，県内居住者62.2%で県内に住む比率が高く，年次別では，Ⅰ－C，Ⅰ－Bと若い世代に県内居住者が多かった。このことは，Ⅰ－C，Ⅰ－BがⅠ－Aに比べて県外者との結婚が少ないこととも関係している。

(2) Ⅰ－A

Ⅰ－Aは，卒業後20～29年を経過した40代のグループである。（**第5表**）

結婚後の雑煮をみると，継続44.5%，転換55.5%で，わずかながら結婚後に雑煮の種別を変えたものが多かった。雑煮の種類でみると，島根の主雑煮である小豆雑煮（41.9%）と黒豆雑煮（46.2%）が減り，具入り雑煮（2.6倍）や味噌雑煮（7倍）が増えていた。

そこで，妻と夫の出身別に雑煮の実施状況をみると，同圏38.1%，異圏68.0%，県外80.6%と雑煮圏

第５表　追跡Ｉ－Ａの変遷

第5－1表　雑煮の種別　－元日－

（人）

出身＼種別		小豆	海苔	五色	黒豆	椎茸	豆腐	貝	鮎	具入り	素	味噌	好み	合計
同圏	在学時	23	18	1	7	1	2			11				63
	継続	9	17	1	4	1	1			6				39
	転換	4	8						1	9	2			24
異圏	在学時	9	6	1	3	3		1		2				25
	継続		5	1		1				1				8
	転換	1	5	3	1			2		3	1		1	17
県外	在学時	11	13	1	3			1		1		1		31
	継続	2	1		1					1		1		6
	転換	2								16		6	1	25
合計	在学時	43	37	3	13	4	2	2	0	14	0	1	0	119
	継続	11	23	2	5	2	1	0	0	8	0	1	0	53
	転換	7	13	3	1	0	0	2	1	28	3	6	2	66

第5－2表　継続と転換の理由

（人）

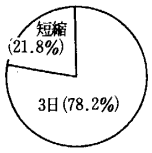
出身＼理由	継続				転換							合計		
	核家族		複合家族		核家族			複合家族				家族形態		合計
	妻	夫	妻	夫	夫	居住	し好	夫	居住	し好	復活	核	複合	
同圏	6	16	2	15	8	3	4	6		2	1	37	26	63
異圏	4	4			8	2	1	6				19	6	25
県外	4	2			14	4	2	4	1			26	5	31
合計	14	22	2	15	30	9	7	16	1	2	1	82	37	119

第5－3表　３が日の実施状況　－期間－

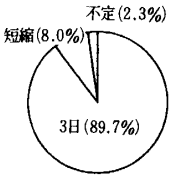
（人）

出身＼期間	継続				転換				合計		
	核家族		複合家族		核家族		複合家族				
	３日	短縮	３日	短縮	３日	短縮	３日	短縮	３日	短縮	合計
同圏	19	3	14	3	10	5	9		52	11	63
異圏	7	1			11		5	1	23	2	25
県外	2	4			12	8	4	1	18	13	31
合計	28	8	14	3	33	13	18	2	93	26	119

子世代



親世代

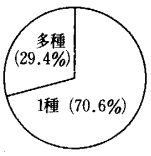


第5－4表　３が日の実施状況　－種類－

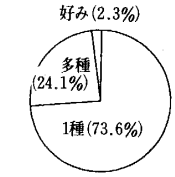
（人）

出身＼種類	継続				転換				合計		
	核家族		複合家族		核家族		複合家族				
	１種	多種	１種	多種	１種	多種	１種	多種	１種	多種	合計
同圏	14	8	14	3	9	6	6	3	43	20	63
異圏	6	2			7	4	3	3	16	9	25
県外	4	2			17	3	4	1	25	6	31
合計	24	12	14	3	33	13	13	7	84	35	119

子世代



親世代



第5－5表　出身と居住地

（人）

出身＼居住		県内			他県						合計		
		自圏	同圏	他圏	中国	四国	九州	関西	中部	関東	県内	他県	合計
継続	自圏	11		2	3			3		1	13	7	20
	同圏	12	1	1	1	1		1		2	14	5	19
	異圏	2		3				1		2	5	3	8
	県外	2				1		1		2	2	4	6
	合計	27	1	6	4	2		6		7	34	19	53
転換	自圏	7	1					1		3	8	4	12
	同圏	5	2	1				1	1	2	8	4	12
	異圏	4		7			1	2	1	2	11	6	17
	県外		1		6	1		6	2	9	1	24	25
	合計	16	4	8	6	1	1	10	4	16	28	38	66

注；関東には新潟，長野，静岡以東の都道県を含む

の異なる夫婦の組合わせに転換の比率が高かった。雑煮の種類では，同圏で小豆雑煮が減って海苔雑煮が増え，県外では，具入り雑煮が増えていた。また，関西出身の夫との組合わせでは，味噌雑煮が多くみられた。県外で海苔雑煮がみられないのは，生海苔の入手の困難なことに加えて，海苔と餅だけの取合わせが特殊なことや，すまし仕立てで具入り雑煮に変化しやすいことなどが考えられる。

継続，転換の理由をみると，継続では，自分の雑煮（30.2%）よりも，夫も同じ雑煮（69.8%）であった比率が高く，また，複合家族（11.8%）より，核家族（38.9%）に自分の雑煮を作る比率が高かった。やはり核家族は主婦主導型で，自分の雑煮を受け入れやすい環境にあるといえる。

転換では夫の雑煮69.7%，居住地の雑煮15.2%で婚家の雑煮に変わる比率が高く，その比率は，核家族（65.2%）よりも複合家族（80.0%）に高かった。また，核家族には，居住地や家族の好み（34.8%）で雑煮を変えるなど多様な転換がみられた。

しかし，継続，転換を問わず夫主導型であり，女性にとって結婚は，婚家の風習やしきたりを受け継ぐことといえる。

期間や日替りなど3が日の実施状況をみると，調査対象の78.2%が3が日の間雑煮を作り，実施期間の短縮は21.8%であった。継続と転換の間には大差はないが，やはり複合家族の実施率が高く，とくに，転換の複合家族（90.0%）で3が日作る傾向が強かった。出身別では，県内（14.8%）の組合わせより県外（41.9%）の組合わせに短縮化傾向が強かった。さらに，在学中の親世代の実施状況（短縮10.3%）との比較では，子世代で結婚後（21.8%）の短縮化傾向が強かった。

日替り傾向は，継続では71.7%，転換では69.7%と，わずかに継続で1種類を守る人が多かった。また，継続では，核家族（66.7%）より複合家族（82.4%）に1種類の人が多く，転換では家族形態による差は少なかった。出身別では，県内の組合わせより，県外との組合わせに1種類（80.6%）の比率が高かった。

妻と夫の出身を県内は雑煮圏別に，県外は6地域に分けて，その組合わせをみると，継続では，88.7%と県内の組合わせが多く，かつ，自圏，同圏の比率が高かった。転換では，異圏（25.8%）と県外（37.9%）の組合わせが多かった。

妻と夫の組合わせについで居住地も変化の大きな要因であるが，継続の64.2%が県内に居住し，転換では県外居住（57.6%）の比率が高かった。これは，後出のⅠ－B，Ⅰ－Cに比べてかなり高く，都会へあこがれた当時の時代的背景がうかがえる。

また，夫が県外出身者の場合はそのほとんどが県外（90.3%）に居住しており，このことが大きく食生活の変遷に関係していた。

夫の出身は，中国，関西，関東をはじめ，四国，九州，中部などに分散し，居住では，関東，関西地域の居住者が多かった。

(3) Ⅰ－B

Ⅰ－Bは，卒業後14～21年を経過した30代のグループである。（**第6表**）

結婚後の実施状況をみると，継続47.5%，転換52.5%と，Ⅰ－Aに比べ，わずかに継続の比率が転換を上回った。出身別では，同圏44.4%，異圏60.0%，県外69.6%と，妻と夫の雑煮圏が異なるほど転換の比率が高く，この傾向はⅠ－Aと同じであったが，県外では，Ⅰ－Aに比べ継続の比率が高かった。

雑煮の種別では，県内で海苔雑煮，県外で具入り雑煮が好まれるのはⅠ－Aと同じであったが，小豆雑煮の減少（県内）に歯止めがかかった。これは，調査対象が子育て世代であり，子供に小豆雑煮が好まれるためと思われる。

継続，転換の理由をみると，継続では，自分の雑煮（33.3%）より，夫も同じ雑煮（66.7%）であった比率が高く，転換では，88.7%が婚家の雑煮に変わり，Ⅰ－Aのような居住やし好での転換が少なかった。これは，Ⅰ－Bが同居世代であるためであろう。

雑煮の実施期間や日替り傾向は，3が日実施が継続66.7%，転換66.0%と両者に差がなく，Ⅰ－Aに比べ短縮化傾向がみられ，3が日へのこだわりがうすかった。

出身別では，Ⅰ－Aは県外（50.0%）に短縮化傾向が強かったが，Ⅰ－Bでは県外（32.4%）よりも同圏（52.9%）にその傾向が強かった。

日替り傾向は，転換86.8%，継続72.9%と転換に1種類の比率が高く，Ⅰ－Aに比べ多種化傾向に歯止めがかかった。

以上から，Ⅰ－Aを「多種・3日」型とするなら，Ⅰ－Bは「1種・短縮」型といえる。

妻と夫の組合わせや居住では，夫婦の組合わせ，

第６表　追跡Ｉ－Ｂの変遷

第6－1表　雑煮の種別　－元日－

（人）

出身＼種別		小豆	海苔	五色	黒豆	椎茸	豆腐	貝	具入り	素	味噌	好み	合計
同圏	在学時	20	23	2	6	1	3		7	1			63
	継続	9	15	1	4	1	1		3	1			35
	転換	8	13		2		1	1	3				28
異圏	在学時	3	6	1	2				3				15
	継続	1	3		1				1				6
	転換	4	2					1	1			1	9
県外	在学時	4	10		6	1			2				23
	継続		4			1			2				7
	転換		1					1	11	1	2		16
合計	在学時	27	39	3	14	2	3	0	12	1	0	0	101
	継続	10	22	1	5	2	1	0	6	1	0	0	48
	転換	12	16	0	2	0	1	3	15	1	2	1	53

第6－2表　継続と転換の理由

（人）

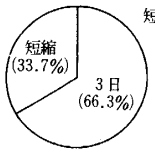
理由＼出身	継続				転換					合計		
	核家族		複合家族		核家族			複合家族		家族形態		合計
	妻	夫	妻	夫	夫	居住	し好	夫	し好	核	複合	
同圏	2	15	4	14	7		3	17	1	27	36	63
異圏	4	1		1	4			5		9	6	15
県外	5		1	1	11	1	1	3		18	5	23
合計	11	16	5	16	22	1	4	25	1	54	47	101

第6－3表　３が日の実施状況　－期間－

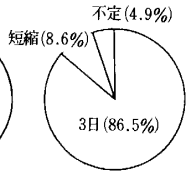
（人）

出身＼期間	継続				転換				合計		
	核家族		複合家族		核家族		複合家族				
	３日	短縮	３日	短縮	３日	短縮	３日	短縮	３日	短縮	合計
同圏	12	5	13	5	6	4	14	4	45	18	63
異圏	3	2	1		2	2	4	1	10	5	15
県外	2	3	1	1	8	5	1	2	12	11	23
合計	17	10	15	6	16	11	19	7	67	34	101

子世代



親世代

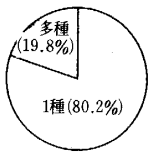


第6－4表　３が日の実施状況　－種類－

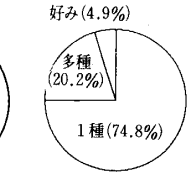
（人）

出身＼種類	継続				転換				合計		
	核家族		複合家族		核家族		複合家族				
	１種	多種	１種	多種	１種	多種	１種	多種	１種	多種	合計
同圏	11	6	13	5	9	1	13	5	46	17	63
異圏	4	1	1		4		4	1	13	2	15
県外	4	1	2		13		3		22	1	23
合計	19	8	16	5	26	1	20	6	81	20	101

子世代



親世代



第6－5表　出身と居住地

（人）

出身＼居住		県内			他県					合計		
		自圏	同圏	他圏	中国	九州	関西	中部	関東	県内	他県	合計
継続	自圏	16	1	1	2				1	18	3	21
	同圏	8	2	1	1				2	11	3	14
	異圏	1		3	1				1	4	2	6
	県外	1		1	2		2		1	2	5	7
	合計	26	3	6	6	0	2	0	5	35	13	48
転換	自圏	9					1			9	1	10
	同圏	9	7			1			1	16	2	18
	異圏	2		5			2			7	2	9
	県外			1	7	1	3	2	2	1	15	16
	合計	20	7	6	7	2	6	2	3	33	20	53

第７表　追跡Ｉ－Ｃの変遷

第7－1表　雑煮の種別　－元日－

（人）

出身＼種別		小豆	海苔	五色	黒豆	椎茸	具入り	素	味噌	好み	合計
同圏	在学時	17	18	1	2	1	1				40
	継続	13	17	1	2	1					34
	転換		2		2		1			1	6
異圏	在学時	5	3		1		1				10
	継続	1	2		1						4
	転換	1	4					1			6
県外	在学時	5	5		2		1	1	2		16
	継続	2	3					1			6
	転換		4				6				10
合計	在学時	27	26	1	5	1	3	1	2	0	66
	継続	16	22	1	3	1	0	1	0	0	44
	転換	1	10	0	2	0	7	1	0	1	22

第7－2表　継続と転換の理由

（人）

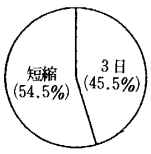
出身＼理由	継続				転換			合計		
	核家族		複合家族		核家族		複合家族	家族形態		合計
	妻	夫	妻	夫	夫	し好	夫	核	複合	
同圏	7	14	4	9	2	1	3	24	16	40
異圏	1	3			3	1	2	8	2	10
県外	1		2	3	8	1	1	10	6	16
合計	9	17	6	12	13	3	6	42	24	66

第7－3表　３が日の実施状況　－期間－

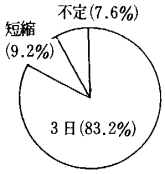
（人）

出身＼期間	継続				転換				合計		
	核家族		複合家族		核家族		複合家族				
	３日	短縮	３日	短縮	３日	短縮	３日	短縮	３日	短縮	合計
同圏	6	15	10	3	1	2	1	2	18	22	40
異圏	3	1			2	2		2	5	5	10
県外		1	2	3	4	5	1		7	9	16
合計	9	17	12	6	7	9	2	4	30	36	66

子世代



親世代

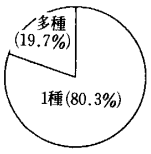


第7－4表　３が日の実施状況　－種類－

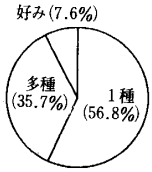
（人）

出身＼種類	継続				転換				合計		
	核家族		複合家族		核家族		複合家族				
	１種	多種	１種	多種	１種	多種	１種	多種	１種	多種	合計
同圏	17	4	10	3	2	1	3		32	8	40
異圏	3	1			3	1	2		8	2	10
県外	1		3	2	8	1	1		13	3	16
合計	21	5	13	5	13	3	6	0	53	13	66

子世代



親世代



第7－5表　出身と居住地

（人）

出身＼居住		県内			他県			合計		
		自圏	同圏	他圏	中国	関西	関東	県内	他県	合計
継続	自圏	14	1			1		15	1	16
	同圏	12	4	1		1		17	1	18
	異圏	2		1	1			3	1	4
	県外			1	4		1	1	5	6
	合計	28	5	3	5	2	1	36	8	44
転換	自圏	1			1			1	1	2
	同圏	3	1					4		4
	異圏	2		3			1	5	1	6
	県外		1	1	6	2		2	8	10
	合計	6	2	4	7	2	1	12	10	22

居住とも県内の比率が高かった。また，転換に県外との組合わせや，他県に居住する比率が高いが，Ⅰ－Aに比べその比率はかなり低かった。

夫の出身は中国，九州，関西などで，居住地は中国，関西，関東などであった。

(4)　Ⅰ－C

Ⅰ－Cは，卒業後6～13年を経過し，年齢26～33歳のグループであり，Ⅰ－A，Ⅰ－Bの90%以上が既婚者であったのに対して，Ⅰ－Cの既婚率は69.5%であった。（**第7表**）

結婚後の雑煮は，継続66.7%とⅠ－A（44.5%），Ⅰ－B（47.5%）より継続が転換を上回り，とくに，同圏の継続率（85.0%）が高かった。

雑煮の多種化傾向はⅠ－Aに比べて低く，1種（80.3%）を作る傾向であったが，3が日の実施状況は，Ⅰ－C54.5%，（Ⅰ－A21.8%，Ⅰ－B33.7%）とⅠ－Cではじめて短縮率が50%を超え，期間ではⅠ－A，Ⅰ－Bに比べ短縮化が一層強まり「1種，短縮」型であった。

以上Ⅰ－Cでは，Ⅰ－A，Ⅰ－Bとやや異なる傾向がみられたが，県内居住の比率がやや高いほかは家族構成，夫の出身などには大差はなかった。

追跡Ⅰグループの在学中，すなわち，調査対象の親世代の実施状況をみると，A「1種，3日」，B「1種，3日」，C「多種，3日」型であった。また，Dでは「1種，3日」傾向が一層強まったことから，親世代は子世代に比べ3が日にこだわりのあることがうかがえた。

3)　追　跡　Ⅱ

(1)　調査対象の概要

追跡Ⅱの調査対象は，1993年のアンケート回答者の中で，'87年のアンケートの回答者でもあり，当時すでに結婚していたAおよびBグループの121人（55.0%）である。このグループを追跡Ⅱ－A，Ⅱ－Bとして，結婚後の雑煮の実施状況の経時的変化を追求した。（**第3表**）

Ⅱ－AおよびⅡ－Bの継続率は平均42.1%でⅡ－A，Ⅱ－B間に差はほとんどないが，追跡Ⅰに比べるとⅡ－A，Ⅱ－Bは共に転換の比率がやや高かった。

妻と夫の組合わせでは，追跡Ⅰ－BよりⅡ－Bに同圏の組合わせが多く，Ⅰ－A，Ⅱ－A間には差はなかった。

'93年現在の家族形態および居住は，Ⅱ－A，Ⅱ－B平均で核家族57.9%，複合家族42.1%で，継続（54.9%）より転換（60.0%）に核家族が多かった。居住は，Ⅱ－A，Ⅱ－B平均で県内67.8%，県外32.2%，継続では県内84.3%，転換では県内55.7%と継続での県内居住率が非常に高かった。また，追跡Ⅰよりかなり県内居住の比率が高く，とくに，継続にその比率が高かった。

(2)　Ⅱ－A

Ⅱ－Aの'87年当時の年齢は，36～43歳である。（**第8表**）

在学時の雑煮を継続している比率は，41.3%と追跡Ⅰ－A（44.5%）を下回り，転換率がやや高い。

また，種別について経時的な変化をみると，'87年，'93年との間に経時的な変化はほとんどみられないが，全体としては，具入り雑煮が増え，家族形態別では，核家族で小豆雑煮が激減し，複合家族で海苔雑煮が増えた。また，在学中にみられなかった五色雑煮，鮎雑煮，味噌雑煮がみられ，これは，婚家から由来したものである。し好に合わないことが，転換の原因の一つであった小豆雑煮も子育て世代には受け入れられ，子供の成長と共に淡白な味へと変化するようである。

妻と夫の出身別でみると，継続では自圏，同圏の組合わせ（77.4%）が多く，転換では異圏，県外の組合わせ（63.6%）が多く，この組合わせの違いが転換につながった。

さらに，結婚後一貫して雑煮の種別をまもっている比率は，Ⅱ－A80%（Ⅱ－B91.3%）で，継続であれ転換であれ一つの種類を守っているものが多かった。しかし，Ⅱ－Aでは'93年に継続で5人，転換で10人（計20.0%）と，わずかながら途中で雑煮の種別を変えていた。しかも，そのうちの40.0%が昔の雑煮を復活していた。これは，子供の成長，老人世代の有無，夫婦の加齢などⅡ－Aの家族構成の変化によると思われた。

継続，転換の理由は，継続では，結婚当初は妻の実家への帰省が多いが，転換では，実家への帰省よりも居住地の雑煮に変わるものが多かった。

実施期間は，'93年になって3が日実施が増えると共に，期間の不定な気まぐれな実施が減り，短縮する傾向が強まった。

第８表　追跡Ⅱ－Ａの変遷

第8－1表　出身圏別による雑煮の種別　－元日－

（人）

出身＼種別		継続							転換										
		小豆	海苔	五色	黒豆	椎茸	豆腐	具入り	小豆	海苔	五色	黒豆	椎茸	貝	鮎	具入り	素	味噌	好み
在学時		7	11	2	4	2	1	4	18	9		8	2	1		6			
'87年	自圏	2	4		3	1	1	1		6						3	1		
	同圏	4	4	1				3	1	2					1	1	1		
	異圏		2	1		1			2	4	3	1		2		2			1
	県外	1	1		1				2	1						6		3	1
'93年	自圏	2	4		2	1	1	2		5		2				2	1		
	同圏	3	6	1				2	2	1					1	1	1		
	異圏		2	1		1			1	4	3	1		2		2	1		1
	県外	1	1					1	3							6		3	1
合計	在学時	7	11	2	4	2	1	4	18	9	0	8	2	1	0	6	0	0	0
	'87年	7	11	2	4	2	1	4	5	13	3	1	0	2	1	12	2	3	2
	'93年	6	13	2	2	2	1	5	6	10	3	3	0	2	1	11	3	3	2

第8－2表　家族形態別による雑煮の種別

（人）

家族形態＼種別		継続							転換										
		小豆	海苔	五色	黒豆	椎茸	豆腐	具入り	小豆	海苔	五色	黒豆	椎茸	貝	鮎	具入り	素	味噌	好み
核	在学時	3	4	2	1	2		3	12	7		4	1	1		4			
	'87年	3	4	2	1	2		3	2	7	2	1		1		10	2	3	1
	'93年	3	5	2		2		4	3	6	1	3		1		8	3	3	1
複合	在学時	4	7		3		1	1	6	2		4	1			2			
	'87年	4	7		3		1	1	3	6	1			1	1	2			1
	'93年	3	8		2		1	1	3	4	2			1	1	3			1

第8－3表　継続の理由

（人）

出身＼理由			県内居住					他県居住			
			妻	帰省（妻）	夫	転換 夫	転換 し好	妻	帰省（妻）	夫	転換 夫
'87年	核家族	自圏		2	2						
		同圏		3	1				1		
		異圏	1	2					1		
		県外		1					1		
	複合家族	自圏			8						
		同圏		2	5						
		県外		1							
'93年	核家族	自圏	1		3						
		同圏	2		2			1			
		異圏	2		1					1	
		県外	2								1
	複合家族	自圏			7		1				
		同圏			4	1	2				

第8－4表　転換の理由

（人）

出身＼理由			県内居住 夫	帰省（夫）	し好	復活	継続 妻	継続 夫	他県居住 夫	帰省（夫）	居住	し好	継続 妻	継続 夫
'87年	核家族	自圏	3						1		2	1		
		同圏	2						1					
		異圏	5	1					1		2			
		県外							6	1	1	2		
	複合家族	自圏	2		1									
		同圏	2			1								
		異圏	4		1				1					
		県外							3					
'93年	核家族	自圏	3					1			1		1	1
		同圏	2						1					
		異圏	5	1			1				2			
		県外							7		1	1	1	
	複合家族	自圏	2										1	
		同圏	2			1								
		異圏	3		1				2					
		県外							3					

第8－5表　3が日の実施状況　－期間－

（人）

期間＼出身	継続 '87年 3日	短縮	不定	継続 '93年 3日	短縮	不定	転換 '87年 3日	短縮	不定	転換 '93年 3日	短縮	不定	合計 '87年 3日	短縮	不定	合計 '93年 3日	短縮	不定
核家族	11	2	2	13	2	1	20	3	6	21	7	1	31	5	8	34	9	2
複合家族	13	1	2	13	1	1	14	1		14	1		27	2	2	27	2	1
自圏	10	2		11	1		7	1	2	7	2	1	17	3	2	18	3	1
同圏	9		3	10		2	6			6			15	0	3	16	0	2
異圏	4			4			13		2	14	1		17	0	2	18	1	0
県外	1	1	1	1	2		8	3	2	8	5		9	4	3	9	7	0
合計	24	3	4	26	3	2	34	4	6	35	8	1	58	7	10	61	11	3

第8－6表　3が日の実施状況　－種類－

（人）

種類＼出身	継続 '87年 1種	多種	継続 '93年 1種	多種	転換 '87年 1種	多種	転換 '93年 1種	多種	合計 '87年 1種	多種	合計 '93年 1種	多種
核家族	13	2	12	4	20	9	20	9	33	11	32	13
複合家族	12	4	12	3	11	4	10	5	23	8	22	8
自圏	9	3	10	2	7	3	7	3	16	6	17	5
同圏	9	3	9	3	5	1	4	2	14	4	13	5
異圏	4		3	1	9	6	9	6	13	6	12	7
県外	3		2	1	10	3	10	3	13	3	12	4
合計	25	6	24	7	31	13	30	14	56	19	54	21

第９表　追跡Ⅱ－Ｂの変遷

第9－1表　出身圏別による雑煮の種別　－元日－

（人）

出身＼種別		継続 小豆	海苔	五色	黒豆	豆腐	具入り	素	転換 小豆	海苔	五色	黒豆	豆腐	貝	具入り	素	味噌	好み
在学時		2	8	1	3	1	4	1	7	8	2	3	2		3			1
'87年	自圏	1	4	1	1	1		1		3		1			1	1		
	同圏	1	3		1		2		3	3		1	1	1	1			
	異圏		1						1	1					1			
	県外				1		2							1	5		1	
'93年	自圏	1	4	1	1	1		1		4		1			1			
	同圏	1	3		1		2		4	2		1	1	1	1			
	異圏		1						1	1					1			
	県外						2	1		1				1	4		1	
合計	在学時	2	8	1	3	1	4	1	7	8	2	3	2	0	3	0	0	1
	'87年	2	8	1	3	1	4	1	4	7	0	2	1	2	8	1	1	0
	'93年	2	8	1	2	1	4	2	5	8	0	2	1	2	7	0	1	0

第9－2表　家族形態別による雑煮の種別

（人）

家族形態＼種別		継続							転換									
		小豆	海苔	五色	黒豆	豆腐	具入り	素	小豆	海苔	五色	黒豆	豆腐	貝	具入り	素	味噌	好み
核	在学時	1	6	1	2		3		4	5	2	2						1
	'87 年	1	6	1	2		3			4		1	1	1	6		1	
	'93 年	1	5	1	2		3		1	4		1	1	1	4		1	
複合	在学時	1	2		1	1	1	1	3	3		1	2		3			
	'87 年	1	2		1	1	1	1	4	3		1		1	2	1		
	'93 年	1	3			1	1	2	4	4		1		1	3			

第9－3表　継続の理由

（人）

出身＼理由			県内居住			他県居住			
			妻	帰省（妻）	夫	妻	帰省（妻）	夫	転換 夫
'87年	核家族	自圏			4			1	
		同圏	1	1	3		1		
		異圏		1					
		県外					1		
	複合家族	自圏		1	3				
		同圏			1				
		県外						2	
'93年	核家族	自圏			3			1	
		同圏	1		4	1			
		異圏	1						
		県外				1			
	複合家族	自圏	1		4				
		同圏			1				
		県外						1	1

第9－4表　転換の理由

（人）

出身＼理由			県内居住					他県居住	
			夫	帰省（夫）	帰省（妻）	し好	継続 妻	夫	帰省（夫）
'87年	核家族	自圏		1				1	
		同圏	1	1		2		1	
		異圏						1	
		県外		1				4	1
	複合家族	自圏	3			1			
		同圏	5						
		異圏	2						
		県外						1	
'93年	核家族	自圏	1					1	
		同圏		1	1	1		1	
		異圏						1	
		県外					1	4	1
	複合家族	自圏	3			1			
		同圏	6						
		異圏	2						
		県外						1	

第9－5表　3が日の実施状況　－期間－

（人）

出身＼期間	継続						転換						合計					
	'87 年			'93 年			'87 年			'93 年			'87 年			'93 年		
	3日	短縮	不定	3日	短縮	不定	3日	短縮	不定	3日	短縮	不定	3日	短縮	不定	3日	短縮	不定
核家族	8	1	4	10	2		8	2	4	10	2	1	16	3	8	20	4	1
複合家族	5	1	1	4	2	2	12			12		1	17	1	1	16	2	3
自圏	8		1	7		2	5		1	5		1	13	0	2	12	0	3
同圏	3	1	3	4	3		8		2	9	1		11	1	5	13	4	0
異圏	1			1			2	1		3			3	1	0	4	0	0
県外	1	1	1	2	1		5	1	1	5	1	1	6	2	2	7	2	1
合計	13	2	5	14	4	2	20	2	4	22	2	2	33	4	9	36	6	4

第9－6表　3が日の実施状況　－種類－

（人）

出身＼種類	継続				転換				合計			
	'87 年		'93 年		'87 年		'93 年		'87 年		'93 年	
	1種	多種	1種	多種	1種	多種	1種	多種	1種	多種	1種	多種
核家族	10	3	11	1	13	1	13		23	4	24	1
複合家族	6	1	7	1	10	2	11	2	16	3	18	3
自圏	7	2	8	1	6		6		13	2	14	1
同圏	5	2	6	1	8	2	8	2	13	4	14	3
異圏	1		1		3		3		4	0	4	0
県外	3		3		6	1	7		9	1	10	0
合計	16	4	18	2	23	3	24	2	39	7	42	4

また，日替り傾向は'87年より'93年にわずかながら多種化が強まり，Ⅰ－A同様にⅡ－Aも「多種，3日」型であった。

(3)　Ⅱ－B

Ⅱ－Bの'87年当時の年齢は28～35歳で継続，転換の比率は転換（56.5%）の比率がやや高いが，転換に同圏の比率（61.5%）の高いことがⅡ－Bの特徴であった。しかし，Ⅱ－A，Ⅱ－B間には大差はなかった。（**第9表**）

さらに，雑煮の種別に経時的な変化はみられないが，小豆雑煮の減少率が低く，海苔雑煮の実施率もⅡ－Aに比べ増加しなかった。出身別では，転換の県外で，具入り雑煮の実施率が高かった。

継続，転換の理由をみると，結婚当初は，妻の実家（継続）や婚家先（転換）へ帰省し，継続，転換を問わず実家への依存度の高いことがうかがえる。'93年になると県内，県外居住とも里帰りが激減し，正月3が日の過ごし方には年代による相違がみられた。

3が日の実施状況は，経時的には'93年に3日実施が増えたが，一方では短縮傾向が明らかになった。日替りでは'93年に雑煮の多種化傾向に歯止めがかかり，1種類の比率が91.3%にのぼった。Ⅰ－Bにみられた「1種，短縮」傾向は，Ⅱ－Bではやや緩やかに展開している。

4．む す び

この調査対象では，県内出身者との結びつき，しかも，生活習慣のほとんど変わらない近隣者との結びつきが多く，そのうえ，県外よりも県内居住者が多かったが，結婚にあたって半数以上がそれまでの食習慣を変え，転換の理由も夫主導型であった。

また，実施方法にも年次的な変化がみられ，基本的に「1種・3日」型である雑煮は，「多種・3日」型から「1種・短縮」型に移行し，「1種，短縮」型として定着する様相をみせ，若い世代に3が日へのこだわりがうすかった。

一度なじんだ味は容易なことでは変りにくく，正月を雑煮で祝う風習も容易にはすたれないと思われたが，将来的には，正月を雑煮で祝う風習は元日だけになろう。

食生活の変化には，社会の風潮に加えて教育，結婚，情報，居住地[6]などが関係するといわれている。結婚による他との交流は知恵の交換であり，新しい情報を入手する機会であった。

さらに，鈴木が，東日本と西日本の相違を維持している重要なメカニズムの一つは通婚圏である[7]と指摘したように，これまでの同じ組内や村内での結婚が，他からの情報の流入を防ぎ，地域の伝統を育み，守り，伝えることに大きく貢献していた。

この調査にご協力いただいた卒業生諸姉に深く感謝致します。また，この研究の一部は，第39回日本家政学会総会（1987）で発表した。

5．文　　献

1)　江角由希子ほか：本学紀要，**31**，P.139～146（1993）
2)　長澤嘉子ほか：本学紀要，**26**，P.19～27（S.63）
3)　長谷川忠男ほか：食の変革，第一出版，東京（H.4）
4)　西東秋男：日本食生活年表，楽游書房，東京，P.200（S.58）
5)　地域食生活研究チーム：日本人の食生活，農林水産省食品総合研究所，東京，P.40（H.3）
6)　内野澄子：人口動態と食生活，第一出版，東京，P.8～9（S.52）
7)　谷川健一ほか：日本民族文化大系，第1巻，風土と文化，小学館，東京，P.196～198（S.61）

（平成5年11月1日受理）